

(別紙様式)

都道府県番号	13
都道府県名	東京都

(                      ✓                      )

### 1 学校名及び規模

三鷹市立北野小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数	
学級数	3	2	3	2	3	2	15	22	
児童数	94	62	92	66	84	71	469		

#### 実践研究の概要

・ 主 題 「確かな学力」を育てる算数科の学習 - 補充学習と発展学習を通して -

・ テーマ設定の趣旨 (少人数指導の必要性)

まずは一斉指導において、補充と発展に応じる指導を充実させることが重要となる。その上で一斉授業だけでは十分には理解できない子や、もの足りない子に対して、もっと一人一人にあった授業が出来ないかと考えることから、少人数指導の必要性がでてくる。本研究では、このための指導方法の工夫をし、指導体制を作っていく。

学級での一斉指導 (教師 1 名)  
計算の仕方や意味を自力で考える  
一斉指導でも常に 3 コースを設定して

・ 友達の考えの良さにふれる  
・ 友達のアイデアにふれ、思考の幅を広げる

学級での一斉指導 (T T で教師 2 名以上)  
類似の計算の仕方や意味を自力で考える  
B レベルを中心に指導  
主に C レベル児童に T T に対応  
A レベルは自力で進める

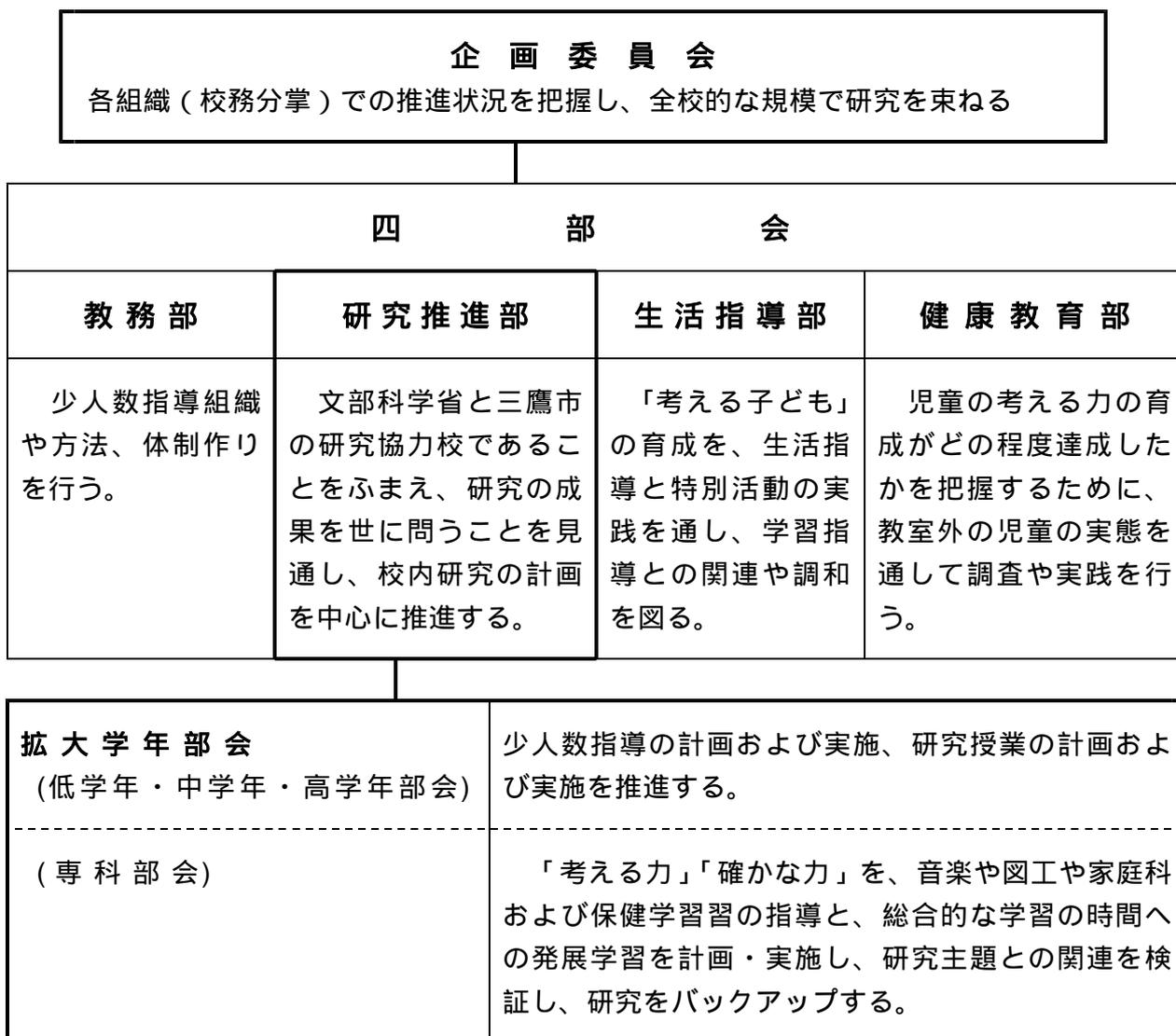
・ T T に対し、自ら援助を求められる  
・ 自分の習熟の度合いを認識できる

少人数指導に  
B レベルは教科書程度で  
C レベルは補充を中心に  
A レベルは発展学習で

・ C の児童の目標点を設定する  
・ C に対する教材・教具の工夫が必要  
・ A の教材の準備 (開発) が必要

実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫



( ) 実践研究の内容

実践研究を中心に、少人数指導に対応した指導方法、指導組織、教材開発の研究を行う。

そのために

算数科の少人数学習の効果的な実施のため、少人数担当教諭を配置し、時間割の編成や教室の配置などを工夫し、整備すべき条件を明らかにする。

授業研究を中心に各学年の発達段階に対応した少人数学習の進め方を明らかにする。

子どもたち一人一人の変容を捉え、指導に生かす評価の方法を明らかにする。

保護者・地域の情報を配信し、少人数指導に対する理解と協力を得て、少人数指導を進める。

( ) 成果と課題

成果

- ・時間割編成など試行を繰り返し、少人数指導を実現させるための条件が整ってきた。
- ・各学年の少人数指導の方向性が明らかになってきた。

低学年・・・単純分割で集団を小さくすることでも効果はあるが、学習の速度によりコース設定

の導入により、特に補充指導の児童の理解は大きく改善される。

中学年・・・前半は学級での一斉指導をし、基礎的事項を押さえ、後半に少人数指導を取り入れ、それぞれのペースに合わせて定着を図る方法が効果的である。

高学年・・・単元はじめからコースを設定して分かれても十分に取り組める。コース選択を決定する際のオリエンテーションが重要である。

- ・アンケート調査では8割を超える児童が、算数が「好き」「楽しい」と答えている。
- ・地域、保護者からも「どの子も生き生きと学んでいる」「分からないことも分かるまで教えてもらえる体制はありがたい」などの反応があり、評価は高い。
- ・学級に向けられがちだった教員の意識も、学年で動くことの重要性を認識するようになった。

課題

- ・全学年、主だった単元について、すべて少人数指導を実施するまでには至らなかった。補充指導・発展指導に伴う教材開発も今後工夫していく必要がある。
- ・「かけ算九九」「くり下がりのあるひき算」など、計算の基礎的な力として、反射的に答えが出るまでに力を付けておく必要がある。その指導方法を工夫し、徹底した補充指導を行う。
- ・少人数でコースに分かれて指導を行うため、指導者の児童理解を助け、指導に一貫性をもたせるための児童のカルテが必要であるが、今後の課題となった。
- ・保護者に対する少人数指導の授業公開は行ったが、地区内の学校への情報提供やITによる情報発信は今後の課題となった。

( ) 成果の普及方策

- ・平成15年10月9日に研究発表を行い、広く地区内外に成果の普及を図る。
- ・インターネットで算数の少人数指導のサイトを設け、常時研究成果を配信していく。
- ・イントラネットでは、地域・保護者に向け学習の様子をライブで配信していく。

( ) その他 <北野小学校の少人数指導を実施するための算数の時間割編成の工夫モデル>

各学年の算数の時間割をそろえることで、全学年、全時間の少人数学習を行うことが可能になる。

\*週4時間を学年でそろえ、不足は学級で実施して指導時数を確保している。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1校時	3年生	5年生	4年生	2年生	1年生
2校時	4年生	1年生	6年生	3年生	2年生
3校時	1年生	<6年生	4年打合	5年生	6年生
4校時	5年打合	3年生	5年生	6年打合	4年生
5校時	2年生	2年生		6年生	3年生
6校時				4年生	5年生

月曜日			
	1組	2組	3組
1校時	音楽	音楽	音楽
2校時	国語	国語	国語
3校時	算数	算数	算数
4校時	生活	生活	生活
5校時	体育	学活	国語

・低学年は、放課後に担任と少人数担当教諭とで打合せを行う。

・時間割を工夫し、専科の授業(この時間は、1組が音楽、2組が図工)を利用して6年担任2人と少人数担当教諭とで打合せを行う。

全学年・全単元の少人数学習を実施するために、時間割の工夫を行いました。学年ごとに少人数指導を実施する教科の時間をそろえることで、それを可能にするとともに、指導の充実には欠かせない「打合せの時間」を生み出すことを重視した。